

次号課題 「見義」

今月の課題は論語の為政編の「子曰 見義不為 無勇也」から転借した「見義」とする。

訓読は「子曰く 義を見て為ざるは 勇なき也」で、意味は「人として当然しなければならぬことを見て、これを実行しないことは勇気がないのである」といったところか…。

この言葉は論語の中でも有名な一節であるが、今使われている意味と聊か異なる。調べてみることをお勧めする。

参考作品



優秀作品



- 出品資格特に制限なし。
- 印（印影）の大きさは3センチ以内（形は自由。楕円・長方形等も可）。
- 印影を白の半紙1/4に押印し、右側に条幅出品券を貼付。
- 課題文字以外の随意作品も出品可。消しゴム印も可。

次号課題

- 出品資格：一般10級～師範。
- B5の用紙に縦書で四行に書くこと。（文字送りは自由）（行書、草書がまじってもよい。ただし漢字、ひらかなの変換は不可）
- 作品右下に条幅作品出品券を貼付。

優秀作品

一声の遠笛 数声の砧
月 江城に満ち 夜は正に深し
胡床を占拠して涼夜を愛す
空階 移り尽く 桂花の陰

※漢詩の訳をブログに掲載しています

高啓「涼夜」

※予告（十月号）は44ページに掲載

金の柱霜雪に朽て既類庵空虛の叢
と成べきを四面新に圍て薨を覆て風
雨を凌暫時千歳の記念とはなれり
五月雨の降のこしてや光堂

西嶋青映

中川千賀子

小森玉華

松本栖麗



金の柱霜雪に朽て既類庵空虛の叢
と成べきを四面新に圍て薨を覆て風
雨を凌暫時千歳の記念とはなれり
五月雨の降のこしてや光堂

澤田桃翠

金の柱霜雪に朽て既類庵空虛の叢
と成べきを四面新に圍て薨を覆て風
雨を凌暫時千歳の記念とはなれり
五月雨の降のこしてや光堂

小早川幸凜

金の柱霜雪に朽て既類庵空虛の叢
と成べきを四面新に圍て薨を覆て風
雨を凌暫時千歳の記念とはなれり
五月雨の降のこしてや光堂

岡村清漣

※用紙は検定試験の（ロ）の使用も可。

